

## マネージメント情報

### ※ 今年で創業 30 年目を迎えました

顧客のみなさんの代替わりもあり、開業当時を知る方も次第に少なくなっていますのであらためて 30 年を振り返ってみたいと思います。

創業者の黒崎が個人開業したのが平成 6 年の 4 月でした。その 2 年前の平成 4 年 3 月に当 15 年勤務しました当時の根室地区 NOSAI を退職し同年 5 月にプロダクションメディスン(現在では生産獣医療と言われている分野ですが、当時は日本語訳すら無い時代でした)の勉強をするために単身渡米し、2 年の武者修行的な研修を終え、帰国後に現在の住所に「総合牛群管理サービス」を個人開業しました。名前の由来は最もお世話になり、独立のきっかけを作ってくれましたウイコンシン州在住の獣医師 Dr. Andrew Johnson の会社の名前の「Total Herd Management Service」をそのまま日本語に訳した屋号であります。

開業当初は繁殖管理を中心に、飼料設計、ミルク一点検を加えた乳房炎管理、それに加えて当時としては新しい概念としての乳牛の安楽性(カウコンフォート)を紹介普及し、係留方法をスタンションからタイストールに変更しトンネル換気の導入する農場が増えるきっかけを作りました。また、酪農の形態が個体管理から牛群管理(フリーストール)への移行期でもありましたので、タイムリーな開業のタイミングだったと思います。

翌平成 7 年に私(山下)が加わり、平成 8 年に阿部獣医師が加わり診療部門が誕生しました。

平成 9 年に法人化し有限会社トータルハードマネージメントサービスとなり、平成 21 年 9 月に有限会社から株式会社になりました。

その後多少の獣医師の出入りはありましたが、平成 20 年に受精卵専門の別会社トータルハードエンブリオサービス LLP(平成 30 年解散)を立ち上げ、翌平成 21 年には授精部門が始まりました。その後平成 26 年には哺乳子牛の預託牧場のトータルハードカーフサービス(令和 4 年独立)を立ち上げました。また、平成 30 年に再度受精卵移植の技術を持つべく体外受精卵部門のラボを新築し、昨年令和 4 年に委託 OPU ドナーを飼養する為に農業生産法人トータルハードマネージメントサービスジェネティックスを設立し同年 12 月に OPU 牛舎を新築することができました。

節目の今年令和 5 年 3 月には創業者の黒崎尚敏が酪農業界での最高位の賞であります第 55 回宇都宮賞を酪農指導の部で受賞することができました。

これも顧客の皆さんと関係者、及び、職員のみなさんに助けられながら一緒に歩いて来た賜だと実感しているところです。

### ・【ご報告】みなさんにご報告があります。

私事ではありますが、ひと月半前の 5 月 24 日に脳梗塞になり 4 週間ほど釧路孝仁会記念病院で入院加療し、6 月 20 日に意事退院することができました。

幸いにも発見が早く軽症だったこともあり、身体的な後遺症も無く 7 月 3 日より出社しています。担当の顧客のみなさんにはたいへんご迷惑をおかけしましたが、若手の獣医師が頑張って対応してくれましたので、何とか凌ぐことができました。

特に OPU は私が中心にやっていたのですが、今回の件でしっかりと後継者も誕生しました。他の若手獣医師も積極的に OPU にトライしてくれていますので、期待しています。

周りのみなさんからは「無理せずに細く長く」と厳命されていますので、さすがに今回は言うとおりにしなければならぬと考えているところです。

今のところ社内で内勤の状況ですが、車の運転も問題ありませんので、少しずつみなさんの農場にも伺って行きたいと考えています。

一般の人が経験しない大病を二度経験し二度とも何とか克服できた運に感謝しています。

憎まれっ子世にはばかると言いますので今後とも末永くお付き合いくださるようお願いいたします。